

当科は、常勤医師1名、非常勤医師1名で診療を行っています。2名とも日本眼科学会専門医です。外来は月から金までの午前中で、火・水・木は2診制で行っています。なお、他院から紹介をご希望される場合は、地域医療・患者支援センターを通して、予約をお願い致します。午後は火・水は手術日、それ以外の月・木・金は検査・処置・小手術を予約制で行っています。



## 診療内容

眼科疾患全般（眼瞼・角膜・結膜・水晶体・ぶどう膜・網膜硝子体疾患、緑内障、感染症、斜視・弱視、外傷 等）をカバーして診察しています。手術治療は白内障、緑内障、眼瞼・結膜疾患、網膜・硝子体疾患などを中心に行っています。網膜静脈閉塞症・糖尿病網膜症に伴う黄斑浮腫、加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬の硝子体注射も行っております。

## 白内障手術

眼科の手術の中で、最も多く行っている手術です。局所麻酔下に、混濁した水晶体の中身を除去して、眼内レンズを挿入する手術です。令和5年の手術件数は298件でした。日帰りで行われることが多い手術ですが、当院では希望に応じて入院にも対応しています。入院68%、日帰り32%の比率です。入院できることで、手術に対して安心感が得られる場合もあると思います。患者さんの状況によっては、全身麻酔での手術を選択する場合があります。

なお、当院では挿入している眼内レンズは単焦点のレンズです。

## 糖尿病網膜症

令和4年(2022)の厚生労働省の国民健康・栄養調査の結果では、「糖尿病が強く疑われる者」の割合は男性18.1%、女性9.1%です。最近の10年間でみると、男女とも有意な増減はみられません。

また、少し古いデータですが、平成3年の厚生労働省糖尿病調査研究班による合併症調査によると、糖尿病患者のうち、38.3%の割合で糖尿病網膜症を合併していることが報告されています。

糖尿病を指摘されている患者さんの場合、内科に通院している方は多いのですが、眼科で定期的に眼底検査を受けられている方は少ないように感じています。糖尿病網膜症において、自覚症状が出現するのはかなり進行してからになります。早

期発見・早期治療を行うことで、将来の自分の視力を守ることができます。糖尿病の方は定期的に眼底検査を受けて下さい。

## 緑内障手術

日本人の視覚障害の原因疾患の第1位は緑内障(28.6%)です。第2位：網膜色素変性症(14.0%)、第3位：糖尿病網膜症(12.8%)と続きます。緑内障手術は年々改良が進み、術式も増えて、治療成績もかなり改善されてきました。現在来てくれている非常勤医師(藤原Dr.)は、元々徳島大学で緑内障外来を担当していたこともあり、必要に応じて比較的侵襲の少ない流出路再建術(眼内法)を執刀してもらっています。

## 硝子体手術

網膜・硝子体疾患(黄斑上膜、黄斑円孔、硝子体出血、糖尿病網膜症、網膜剥離など)に対して、硝子体手術を行っています。硝子体カッター、眼内器具、眼内照明を直接眼内に差し込んで行う手術です。白内障を認める場合は、同時に白内障手術も行います。現在、常勤医師が1名のため、硝子体手術は抑え気味にしています。緊急の場合は、事前にご相談下さい。

## 眼瞼手術

加齢とともに眼瞼を持ち上げたり支えたりする筋力が衰え、眼瞼下垂や眼瞼内反が起こります。当科でも手術治療を行っていますが、症例によっては当院形成外科に紹介させていただきます。まずはご相談下さい。

## 抗VEGF治療

糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫、加齢黄斑変性などに対して、抗VEGF薬(アイリーア・バビースモ)の硝子体内注射も行っています。

## 広角眼底撮影

令和6年10月に超広角眼底撮影が可能なニコン社製optosが導入されました。0.4秒で超広角の眼底の記録が可能です。ほとんどの場合、無散瞳状態でも撮影が可能のため、車で受診されている方にも対応できます。



(文責 谷 英紀)

		月	火	水	木	金
眼科	午前	谷 英紀	谷 英紀	谷 英紀	谷 英紀	谷 英紀
			藤原 亜希子 (非常勤医師)	藤原 亜希子 (非常勤医師)	藤原 亜希子 (非常勤医師)	
	午後	検査・処置	手術(谷 英紀)	手術(谷 英紀) (藤原 亜希子)	検査・処置	検査・処置